

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：32604

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K04549

研究課題名（和文）后妃・女院の儀礼と生活様態の変容にみる中世上流住宅の復元的研究

研究課題名（英文）Reconstructive Study of Medieval Upper-Class Residences as Seen Through the Rituals and Lifestyle Changes of Empresses and Imperial Princesses

研究代表者

赤澤 真理（Akazawa, Mari）

大妻女子大学・家政学部・准教授

研究者番号：60509032

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、打出（2具の袖口と襷を御簾の下から出す）の舗設を通して、10世紀から14世紀頃の後妃・女院の儀礼空間を明らかにする。古記録・文献史料・絵画史料を調査し、打出の実態や用法を検討する。また、女房装束を使用し、打出を再現することで、打出のイメージを検討する。打出は、平安物語に示された本文と中世の絵画に描かれた視覚的表現が重ねられ、理解が構築されてきた。打出・几帳は、空間の季節感や居住者の特性を表す室内装飾ともいえる。後の近世の障壁画につながる役割がある。さらに、19世紀の住吉広行筆「舞楽図」（毛利博物館蔵）の打出の表現により、打出の袖口に付ける工芸装飾の重要性を認識した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

寝殿造の研究は、公的な儀式を中心に、平面構成・殿舎配置の解明を目指して、研究がなされてきたため、住宅の内部空間の使い方や演出方法に関する研究は少ない。本研究は、これまで服飾史や国文学、日本史学等で推進されてきた女房装束と建築との関係性から、古代中世の住空間の特質を追求したことに学術的な意義がある。また、これまであまり注目されてこなかった后や内親王、女房といった女性の使用する空間について注目したことに社会的な意義がある。

研究成果の概要（英文）：This research elucidates the ritual spaces of empresses and Imperial princesses from the 10th to 14th centuries through the study of interior furnishings known as "uchi-ide." The research method involves examining ancient records, literary sources, and pictorial sources to clarify the realities and usages of uchi-ide. Additionally, by recreating uchi-ide using period-appropriate court dress, the study explores the colors, patterns, and installation methods of uchi-ide. As a result, it is found that uchi-ide and kichou are interior decorations that reflect the seasonal atmosphere of the space and the characteristics of the inhabitants, playing a role that connects to the partition paintings of the later early modern period. Furthermore, the study recognizes the importance of craft decorations attached to the sleeves of uchi-ide, based on the findings in the Bu-gaku-zu screen by Sumiyoshi Hiroyuki in the 19th-century.

研究分野：建築歴史意匠

キーワード：日本住宅史 宮廷文化 しつらい 絵巻 古典文学 女房 装束 寝殿造

1. 研究開始当初の背景

寝殿造の研究は、公的な儀式を中心に、平面構成・殿舎配置の解明を目指して、研究がなされてきた。『源氏物語』等の王朝文学や宮廷女房日記に示される日常生活や内部空間の使い方に関する研究は少ない。申請者は、これまで描き継がれた源氏物語絵に示された建築空間の変遷を通して、中・近世における寝殿造理解や、平安時代における歌合空間の場を女房の座を通して明らかにしてきた。前課題では、宮廷女房日記を通して、寝殿造の空間において、后・内親王、女房の生活に着目した結果、女性の座を示す舗設であった打出を通して、中世住宅の変容過程を分析するという課題が明確になってきた。

2. 研究の目的

本研究は、儀礼空間における女性の座を示す打出という舗設の変遷を通して、平安時代から南北朝時代頃の後妃・女院の儀礼と生活様態の変容を住宅史の視点から明らかにすることを目的とする。具体的には、(1)古記録・文献史料を収集し、打出の用法について究明すること、(2)中世宮廷に関わる絵画史料を調査し、実見を通して打出の実態を明らかにすること、(3)服飾史・国文学・美術史などの他の領域の研究者の協力を得て、打出の色彩や文様、設置方法などを検討し、打出を再現した。

3. 研究の方法

打出とは、女房装束を几帳に架け、几帳を中心に、2具の袖口と襷を御簾の下から出す装束である。前年度までの研究課題(2014~2017)において、(1)打出の用法、(2)打出の内部空間、(3)打出の意匠、(4)打出の場所、(5)女性座としての意味について検討したが、本研究はそれを補完し、他分野の研究者の協力を得て、研究成果を公開した。

(1) 古代中世建築の実見・検討

法隆寺伝東院伝法堂の地蔵会、室生寺金堂、春日大社着到殿、東寺御影堂、京都市内の高陽院、リサーチパーク蔵平安時代前期の寝殿造模型、堀川音楽高校における庭園跡、京都市風俗博物館岩手県平泉柳御所遺跡、三重県明和町の平安の杜(9世紀の正殿等)等を実見することで、古代中世建築の理解を深め、情報を収集した。これらの成果は、博物館図録や単著に活かした。

(2) 絵画史料・文献史料の調査

打出等の寝殿造におけるしつらいが描かれた絵画を調査し、研究の資料とした。

文献史料では、具体的に打出の図が示された、廣義門院御産愚記(延慶4年(1311)4月11日条、姫宮御五十日(『公衡公記』所収)、『花園天皇宸記』齋場御覧 公卿淵醉(正慶元(1332)年11月12日条)を見出した。

絵画史料では、14世紀「平家公達草紙」、宮廷生活を描いた「尹大納言絵巻」(福岡市美術館蔵)、15世紀「扇面画帖」(九州国立博物館蔵)、「舞楽図」(住吉広行筆、毛利博物館蔵)を調査した。この中で「舞楽図」は、寛政度内裏復古造営で紫宸殿の賢聖障子を描いた住吉広行が描いたもので、現存する絵巻には描かれない袖口の工芸装飾が描かれている点を見出し、研究論文に執筆した。展覧会では、「紫式部日記絵巻」(五島美術館蔵)を熟覧し、模本と表現を比較した。

また、奈良県立美術館所蔵の女房装束の調査を服飾史研究者の協力のもと実施した。

メトロポリタン美術館では、「Tale of Genji」展において、各時代の源氏物語絵や、絵画に描かれた空間を再現した展示を熟覧した。

三重県立斎宮歴史博物館では、「類聚雑要抄指図巻」「斎宮の居室の復元模型」「源氏物語須磨巻」「源語図集」「女官飾抄」「女装束図録画帖」を調査した。

「源氏物語展」(東京富士美術館)では、打出を描いた史料として、「紫宸殿蒔絵硯箱」(個人蔵)「源氏物語絵巻」(吉村忠夫筆、大阪青山歴史博物館蔵)「源氏物語図屏風」(狩野晴川院養信、香川法然寺蔵)を熟覧した。

(3)再現展示の検討

打出の再現について、服飾史・美術史・国文学等の研究者にご協力を得て再現を試みた。

皇后宮寛子春秋歌合の再現（2018）

伊永陽子（服飾史）・森田直美（国文学）のご協力を得て、皇后宮寛子春秋歌合の場（天喜四年（1056）の復原を推進し、和歌文学会例会（2018）、平泉文化フォーラム（2019）等で発表した。

「再現！姫君の空間 王朝の華やぎと輝きの世界へ」（三重県齋宮歴史博物館）（2021）

令和2年度リビングヒストリーの助成を得て、打出の再現を試み、企画展示を開催させていただいた（河田昌之・伊永陽子・森田直美・榎戸由樹・岸田早苗・梅澤淳各氏にご協力いただいた）。

「源氏物語 THE TALE OF GENJI - 「源氏文化」の拡がり 絵画、工芸から現代アートまで」（東京富士美術館）（2024）の展示において、鴨木年泰・赤須清美氏にご協力いただき、製作した打出の設備などを新築し、展示させていただいた。会期中に講座等を実施した。

4. 研究成果

本研究の課題は、下記にまとめられる。

(1) 天徳4年(960)内裏歌合の場や、皇后宮寛子春秋歌合の場(天喜四年(1056)の復原を推進し、和歌文学会の例会で発表した。春秋歌合は、里内裏である一条院が会場とされた。渡殿を公卿座、簀子を殿上人、廂の御簾内を女房座とする構成は、天徳内裏歌合に準じるが、左右の女房装束を互い違いにするなど、創意に富んだ演出が生み出された。この場合、左右女房は歌合の趣向に合わせて左・春、右・秋の装束を着用しているが、几帳にはあやめ草模様が用いられ、季節に即した夏仕様であった点を示した。また、頼通水閣歌合の復原を推進し、平泉文化フォーラムにおいて報告した。

以上により、打出・几帳は、儀礼の場の季節感や居住者の特性を表す室内装飾であり、後の障壁画空間につながる役割を持っていることが明確になってきた。

また、女性の儀礼空間の際に、古記録や物語上で、女性は塗籠の中に座る事例が散見された。今後はこの点について追及したい。

(2) 「舞楽図」（毛利博物館蔵）の調査により、19世紀における打出の理解と考証について、明らかにした。倫子六十賀（治安3年(1023)）「栄花物語」御賀巻の倫子六十賀の場面が描かれており、藤原道長の北の方・倫子、長女・彰子、次女・皇太后妍子、三女・中宮威子、六女・嬉子、妍子娘の禎子内親王が参加した。

本図に描かれた打出は、左右の袖口が異なる意匠であり、「雅亮装束抄」や「紫式部日記絵巻」等の描写を踏まえている。「駒競行幸絵巻」もふまえたと考えられるが、現存する絵巻には描かれない置口（袖口を装飾する工芸品）の考証がなされている点が注目される。今日では失われた古画が使用されている可能性があることを言及した。

さらに、寝殿の階の右側（東）に、装束が片袖だけ出ている場所がある。金・山吹・青・赤・緑などのひとときわ華やかな装束と、鶴や亀などの長寿を表す飾りから、主賓である倫子の存在を表していることを示した。絵師である住吉広行は、江戸時代後期に平安時代の様相で建てられた寛政復古内裏の障壁画を制作した絵師で、有職故実に通じていた。

以上により、今日に理解されている寝殿造表現は、中・近世における重層的な理解で形成された側面が強く、打出も中世絵画上のイメージと、平安時代の物語に示された本文が重ねられて理解がなされていることが窺われた。

今後は、打出の上限と下限を文献史料により特定するとともに、女性の空間に関わる塗籠や御帳にも対象を拡げて検討をすることが課題であり、次の課題では（2023年度～2026年度基盤C）新たに服飾史・美術史の研究者を分担者に加え、研究課題を継承している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 赤澤真理	4. 巻 27
2. 論文標題 住吉広行筆「栄花物語舞楽図」にみる 打出 という演出 - 十九世紀における寝殿造への復古をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 8-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中厚子・松下希和・赤澤真理	4. 巻 48
2. 論文標題 戦間期日本の女性を施主とする住宅に関する研究 住まいの近代化と憧れを中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 住総研 研究論文集・実践研究報告集	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿尾あすか	4. 巻 6号
2. 論文標題 『尹大納言絵詞』の成立の背景 - 福岡市美術館本の画中詞の検索を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文学研究 (相愛大学)	6. 最初と最後の頁 42 ~ 30 (1 ~ 13)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤澤真理	4. 巻 なし
2. 論文標題 王朝物語絵を通してみた舗設の継承・変容・復古 - 打出にこめられた中世社会と女院 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会若手奨励特別研究委員会「建築におけるオリジナルの価値」	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤澤真理	4. 巻 なし
2. 論文標題 『慕帰絵』にみる和歌を詠む聖俗の人々とその空間 北野社における法楽和歌会を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『慕帰絵』の制作事情をめぐる総合的研究 覚如像の構築方法と建築表現に注目して -	6. 最初と最後の頁 95-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤澤真理 (ミッコネル ミリアム翻訳)	4. 巻 1
2. 論文標題 The Borders of Shindenzukuri "Inside"and "Outside"as Staged by Uchi'ide	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Studies in Japanese Literature and Culture Center for Collaborative Research on Pre-Modern Texts, National Institute of Japanese Literature	6. 最初と最後の頁 39-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤澤真理・伊永陽子・森田直美	4. 巻 19号
2. 論文標題 寝殿造における遊興空間と装束による演出 - 藤原頼通期から院政期まで -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 平泉文化研究年報	6. 最初と最後の頁 55-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 10件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 赤澤真理
2. 発表標題 源氏物語にみる寝殿造の空間と後世の考証研究
3. 学会等名 時代考証学会第18回サロン (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 赤澤真理
2. 発表標題 御簾の下からこぼれ出る女房装束
3. 学会等名 源氏文化研究の最前線 第11回源氏絵データベース研究会シンポジウム/美術史学会東支部大会(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 赤澤真理
2. 発表標題 「姫君の空間」&十二単着装実演会
3. 学会等名 源氏物語 THE TALE OF GENJI - 「源氏文化」の拡がり 絵画、工芸から現代アートまで (東京富士美術館講座)(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 赤澤真理
2. 発表標題 御簾の下からこぼれ出る女房装束
3. 学会等名 源氏物語アカデミー「源氏物語と殿舎」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 赤澤真理
2. 発表標題 王朝文化プロジェクト 女性文化講座 姫君の空間
3. 学会等名 一般社団法人民族衣裳文化普及協会(日本教育会館一ツ橋ホール)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 赤澤真理
2. 発表標題 王朝文化プロジェクト 女性文化講座 姫君の空間
3. 学会等名 一般社団法人民族衣裳文化普及協会（多賀城市文化センター）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 赤澤真理
2. 発表標題 清少納言たちがそこにいた「空間」を探る（片淵須直監督に対するコメント）
3. 学会等名 国文学研究資料館ないじえる芸術共創ラボ（スペースFS汐留）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 赤澤真理
2. 発表標題 伝住吉如慶筆「源氏物語手鑑」（個人蔵）に関するフリートーク
3. 学会等名 第10回源氏絵データベース研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 赤澤真理
2. 発表標題 御簾の下からこぼれ出る装束 - 王朝物語絵と女性の空間 -
3. 学会等名 第6回日本建築史研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 赤澤真理
2. 発表標題 御簾の下からこぼれ出る装束 - 王朝物語絵と女性の空間 -
3. 学会等名 人間文化研究機構 国文学研究資料館 ないじえる芸術共創ラボ (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 赤澤真理
2. 発表標題 中世住宅における舗設の伝承 住吉廣行筆「舞楽図」(毛利博物館蔵)に描かれた打出を中心に
3. 学会等名 日本建築学会大会 PD 建築におけるオリジナルの価値
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 赤澤真理
2. 発表標題 江戸時代前期の源氏絵に示された建築空間 格式表現の獲得から多様性へ
3. 学会等名 第8回源氏絵データベース研究会、シンポジウム桃山・江戸時代源氏絵研究の最前線
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 赤澤真理
2. 発表標題 御簾の下からこぼれ出る装束 - 王朝物語絵と女性の空間
3. 学会等名 第6回日本建築史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 赤澤真理
2. 発表標題 指図にみる打出の用法とその意味 女房装束の打出にみる寝殿造のしつらい(3)
3. 学会等名 日本建築学会学術講演
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤澤真理・伊永陽子・森田直美
2. 発表標題 皇后宮寛子春秋歌合の空間演出 建築・装束・調度品の復原
3. 学会等名 和歌文学会例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 赤澤真理・伊永陽子・森田直美
2. 発表標題 寝殿造における遊興空間と装束による演出 - 藤原頼通期から院政期まで -
3. 学会等名 平泉文化フォーラム
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 赤澤真理	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東京富士美術館	5. 総ページ数 4
3. 書名 源氏物語 THE TALE OF GENJI - 「源氏文化」の拡がり 絵画、工芸から現代アートまで	

1. 著者名 野村俊一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 216
3. 書名 伝達と変容の日本建築史（障壁画 - 世界の表象と格式、座敷飾 - 飾りの編成を担当）	

1. 著者名 赤澤真理	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本建築学会	5. 総ページ数 12
3. 書名 建築におけるオリジナルの価値に関する若手奨励特別研究（中世住宅における舗設の伝承 住吉廣行筆「舞楽図」（毛利博物館蔵）に描かれた打出を中心に ）	

1. 著者名 河田昌之・赤澤真理・伊永陽子・森田直美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 -	5. 総ページ数 10
3. 書名 姫君の空間 - 王朝の華やぎと輝きの世界へ （斎宮歴史博物館特別展示パンフレット）	

1. 著者名 赤澤真理・野村俊一・西松秀記・海野聡・加藤悠希・是澤紀子・登谷伸宏・中村 琢巳・米澤貴紀	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東北歴史博物館	5. 総ページ数 7
3. 書名 「障壁画 世界の表象と格式」「座敷飾 飾りの編成」（『伝わるかたち 伝えるわざ 伝達と変容の日本建築』）	

1. 著者名 赤澤 真理	4. 発行年 2019年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 120
3. 書名 御簾の下からこぼれ出る装束	

1. 著者名 伊勢物語絵研究会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 328
3. 書名 住吉如慶筆 伊勢物語絵巻	

1. 著者名 赤澤真理 (メリッサマコーミック翻訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 The Metropolitan Museum of Art, distributed by Yale University Press	5. 総ページ数 4
3. 書名 The Tale of Genji: A Japanese Classic illuminated (Shinden Architecture and The Tale of Genji)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	伊永 陽子 (Korenaga Yoko)	武庫川女子大学・研究推進センター・研究員 (34517)	服飾に関する助言
研究協力者	阿尾 あすか (Ao Asuka) (30523360)	相愛大学・人文学部・准教授 (34421)	古典文学に関する助言

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------